

健康福祉部会 会議録

（出席者） 委員：11名
事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）
アドバイザー：1名
ファシリテーター：1名

（会議の内容）

1. はじめに

資料1に基づき、ふり返しシートの質問について事務局から説明しました。

資料2に基づき、第2回まちづくり市民会議（第1回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

2. 今後の検討スケジュールについて

資料3に基づき、今後の検討内容とスケジュールについて事務局から説明しました。

3. 総合計画の人口フレームについて

資料4に基づき、総合計画の人口フレームの方向性について確認を行いました。

4. 戦略プロジェクトについて

資料5に基づき、戦略プロジェクトについて意見交換を行いました。（意見交換の内容は次ページ以降に掲載。）

5. 市民評価について

会場を講堂に移し、「社会福祉協議会運営支援事業」について市民評価を行いました。（市民評価の判定結果は次ページ以降に掲載。）

6. アドバイザー総括（尼崎アドバイザー）

人口については、減少を前提とすることが重要である。また、仲井委員の意見であった、「福祉という言葉がなくす」ことに同感である。子どもが自然と手を差し伸べられるようにしていくことが、この部会で目指すところかと思う。市民評価についても、皆さん緊張し、また悩まれたと思うが、時間が短い中で良い議論ができたと思う。

7. その他

次回開催日程は、4月24日（火）19:00からに決定しました。

各自ふり返しシート、市民評価アンケートを記入し、解散しました。

主な意見（健康福祉部会）

項目	現状・課題
人口について	<p>〔委員〕人口自体は減らなくても高齢化率が高くなってくるとなれば、限られた人材で介護をどう担うか。一部の法人では外国人の研修なども行っているが、そのような視点も、今後の人口増減を考えるうえで大切である。</p>
戦略プロジェクトについて	<p>〔委員〕多様化する高齢者のニーズに応える介護予防事業、という名称で新たな事業を提案した。今から5年後に後期高齢者となるのが団塊の世代の方々に、急激に高齢化していくこととなる。その方々は生活様式も多様で、豊かな生活を送ってきて高齢者になる。介護予防事業も、体操や料理などでは満足できないと思われるので、生きがいや、どのように介護されたいのかということを考えることが必要でないかと思ひ、この事業を提案した。</p> <p>〔事務局〕今やっている介護予防事業が、5年後に75歳になる人が参加したいかどうかというのが大きいと思う。参加してもらえない意味がないので、楽しめるかという視点を持って変えていく必要がある。</p> <p>〔アドバイザー〕子どもを育てていかないと人口も増えないという観点から、「移動児童館事業」を選定した。愛知大学としての関わりは、地理情報システムを活用して、地図上のどこに移動児童館を走らせたなら効率よく子どもを集められるかということの検討ができると思う。移動児童館の中で、将棋や囲碁などを教え、プロ棋士の育成などができたらおもしろいのではないかと思った。</p> <p>〔委員〕若い人たちが地域に定住する条件の1つとして、子育て支援がある。子ども教室を実施してみても思う課題は、子ども教室に入っている子どもと入っていない子どもの格差である。地域の人と子どもが知り合いであれば入るが、子ども同士の接点がない。</p> <p>〔委員〕「幸せの黄色いゴミ袋運動」は、参加する気持ちがあれば誰でも参加できる。登校・通勤・散歩のついでにゴミを持っていくというのは、市民協働という趣旨に合致している。子どもが参加できる事業を行うことで、小さいころから福祉の意識を根付かせられればいい。ただ事業化するのに、黄色いゴミ袋の経費はかかる。</p> <p>〔委員〕「徘徊高齢者捜索情報ネットワーク」について。介護事業者は、多かれ少なかれこうした問題に遭遇しており、必要だと思う。先日、福祉課でも同様の事業に取り組むということであったので、そちらの事業とは別なのか、協働していくのか知りたい。</p> <p>〔事務局〕福祉課に確認を取っているが、ネットワーク事業は来年度進めていく。まちづくり市民会議で事業提案が出た場合は、喜んで取り入</p>

	<p>れるとのことである。同じ事業ならより早く具体化する。</p> <p>(委員) 徘徊高齢者は施設でも在宅でも増えていくと思われるし、命にも関わるので、真剣に取り組んでほしい。</p> <p>(委員) 高齢者に加えて障がい者も事業の対象に入れてほしい。自分で、帰りたいという意向が表現できない人もいる。情報共有して進めたいが、個人情報の問題で嫌がられる場合もあると思う。</p> <p>(委員) 高齢者の教室を見ている、今の世代には満足してもらえないように思う。後期高齢者でも元気な方は多い。そのレベルに合わせて進めることが大切である。元気だが日々やることがないと言う人を取り込んでいけばもっと大きなことができるのではないかと思う。</p> <p>(委員) 自分の好きなことには何歳になっても夢中になれる。趣味の情報も収集しながら、介護予防の観点で取組むのは良いことだと思う。</p> <p>(委員) 「幸せの黄色いゴミ袋運動」でかかる費用はゴミ袋だけである。みんなの想いでできることであり、活動を通じて地域の人との関わりが増える。災害などが起きた時にも助け合える関係が自然とできるのではないかと思う。</p> <p>(委員) 「幸せの黄色いゴミ袋運動」について周囲の人に尋ねてみたが、「それは市がやること」という意見が多かった。負担が大きく感じられるので、市民に協力が浸透しないと、提案しても協働の取組みにはならないのではないか。</p> <p>(委員) 近所にもゴミを出せない方がいるが、そのような人は、ヘルパーさんがゴミの日の前日に特別に出している。指定の日以外にゴミを出すことはいろいろな問題があるので、地域の理解が大切である。</p>
--	---

市民評価（健康福祉部会）

≪評価対象事業名≫ : 社会福祉協議会運営支援事業
≪事業の方向性に対する判定結果≫
現行どおり : 2名 一部改善 : 2名
≪今後の事業実施に関する意見、改善点等の提案等≫
<p><現 行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の必要性は高いが、PR方法等を工夫し会員数増につなげる事が課題である。 ・専任の事務員を雇用するためには現在の市からの補助額では不足であると思う。 <p><一部改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動PR、会員数増により、若年層を中心に福祉の理解を促進し、協力してもらう事が必要。 ・まずは、地域に活動内容を宣伝していくことが必要、会員数の増加を。

